

重要文化財 旧福島県尋常中学校本館（安積歴史博物館） 保存修理工事（災害復旧）寄附金募集

趣 意 書

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より旧福島県尋常中学校本館の管理運営に対し格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、重要文化財旧福島県尋常中学校本館は、明治二十二年三月近代日本の学校教育の実践の場として建築され、太平洋戦争終結以前は旧制中学校として、戦後は新制高等学校として昭和四十八年まで多くの若人を送り出してまいりました。その後老朽化による校舎の新築のため取壊しが検討されましたが、「後世に残したい明治期の建物」として注目されることとなり、地元の皆さまの熱心な保存運動が実り、明治期の洋風建築の様相を残し、近代日本の代表的な学校建築として昭和五十二年に文部省から「重要文化財」の指定を受けました。指定後、半解体修理を施し、昭和五十九年からは「安積歴史博物館」としてそれまでの学校教育実践の場から社会教育と文化活動の実践の場として新たな役割を果たしてまいりました。更に平成二十八年に郡山市と猪苗代町を含む日本遺産「一本の水路」が認定された際は、同遺産を構成する重要な文化財としてその役目を果たしております。

そのような中、令和二年、三年と二年連続の福島県沖地震により被災し、修復計画を進めている折、文化庁より、今後の利用や活用のためにも抜本的な「耐震補強」の必要性を指摘され、保存修理工事と同時に耐震補強工事の実施を決断いたしました。

工期は長期間となり、竣工は令和九年三月を予定しております。更に、文化財補修についての特異性もあり、工事関係費用は展示品移設等の費用も含め、現時点で凡そ六億円が見積もられています。文化庁、福島県、郡山市からの補助は有るものの、工事費全額ではありません。更に資材や人件費の高騰も予想されるため、少なくとも所有者負担分として総工費の約一割、六千万円は確保しなければなりません。

竣工後は、皆様の諸活動や、映画、テレビドラマの撮影場所、コンサート会場として、今まで以上に安心してご利用頂けることとなり、旧福島県尋常中学校本館の果たす役割とその利用価値はますます高まるものと確信しております。

諸情勢厳しい状況下、甚だ恐縮でございますが、六千万円を目標金額として、多くの方々から保存修理工事（災害復旧）募金事業にご理解とご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

令和五年十一月吉日

重要文化財 旧福島県尋常中学校本館保存修理工事（災害復旧）実行委員会

会 長	安孫子健一（安積歴史博物館代表理事）
副会長	滝田 康雄（郡山商工会議所会頭）
副会長	宮崎登志行（福島県中小企業家同友会郡山支部長）
副会長	芝田 銀平（郡山青年会議所第六十三代理事長）
副会長	佐藤 裕文（安積高等高校PTA会長）
副会長	笠間 善裕（安積桑野会会長）
副会長	伊藤 健之（桜桑会会長）

なお、当館を管理運営する「公益財団法人安積歴史博物館」に対する寄附金は、法人・個人を問わず税制上の優遇措置を受けることが出来ます（詳細は税理士やお近くの税務署にお尋ねください）。また、「ご寄附者名簿」（仮称）を作成し、ご寄附を頂きました皆様のご氏名を、館内に常時掲出させていただきます。